

令和4年 9月 6日

入間市立東町小学校長

お話朝会(9月)

今日はお話朝会でした。今日は敬老の日になんで、私の昔話をしました。

おはようございます。今日は敬老の日についてお話をします。

校長先生のおじいちゃんとおばあちゃんは、今から13年前に亡くなりました。ですから、もういません。校長先生が子どものころは、おばあちゃんの家から少し離れたところに住んでいました。その当時はまだ毎週土曜授業があったので、校長先生は土曜日の授業が終わると真っ先に電車に乗って、おばあちゃんの家に行きました。おじいちゃんもおばあちゃんはとてもやさしい人でした。おばあちゃんはよく縫物をしていました。昔は洋服に穴が開いたら、それを針と糸を使って直して着ていたんです。でも、おばあちゃんは老眼と言って、近くのものあまり見えません。そういう時は校長先生に「正孝、針に糸を通しておくれ」と言いました。校長先生が糸を通してあげると、それはそれはとても喜んでくれました。また、ある時はクジラのステーキを作ってくれました。昔はクジラの肉を普通に売っていました。校長先生は料理の仕方も知らないくせに、おばあちゃんに作り方をいろいろ言っていました。お前はよく作り方を知ってるねと褒めてくれたのを覚えています。そして、できたステーキがとてもおいしかったんです。きっと、おばあちゃんは校長先生の言うことを聞いたふりをして、味付けを変えていたんでしょうね。毎週おばあちゃんの家に行って3人で寝るのがとても楽しみでした。

でも、校長先生も中学校、高校、大学と大きくなるにつれて、部活動や友達とおつきあいが広がって、だんだんおばあちゃんとお話する機会がなくなってきました。校長先生は大人になって結婚し、子供が生まれましたが、いつしかおじいちゃんとおばあちゃんほとんど話さなくなっていました。13年前の4月、突然先生のお母さんから連絡がありました。おばあちゃんがトイレで転んで、足の骨を折って入院したというのです。それほど大きな骨折ではないけれど、手術が必要でした。校長先生は休みの日にお見舞いに行きました。おばあちゃんにはきっとよくなるよと言って、励ましていました。そして手術が行われる日、校長先生は仕事だったのですが、今度はお父さんから電話が入っていました。おばあちゃんが敗血症という別の病気にかかってしまって手術ができないと。そして、もう手の施しようがなく、あとは死を待つだけということを知りました。電話のあと仕事を休んで、おばあちゃんのところに行きました。おばあちゃんは自分の病気のことは知らされていませんでした。校長先生はいつものようにおばあちゃんの手をとって、大丈夫、すぐよくなるよと言いました。でも、何を話したかはあまり覚えていません。いつものように話をするおばあちゃんを見て、自分の心がざわざわしてしまったことだけは覚えています。それから3日後、おばあちゃんは天国に行きました。そして、その半年後に、おじいちゃんも後を追うように天国に行きました。その時、校長先生は後悔ばかりしていました。もっとおじいちゃんやおばあちゃんとお話をすればよかった。どこかに連れて行ってあげればよかったと。後悔が晴れることはありませんが、おじいちゃんとおばあちゃんの記憶は校長先生にとって、とても大切な思い出です。

さて、皆さんはおじいちゃんやおばあちゃんとお話をしたり、思い出を作っていますか。残念ながら、校長先生と同じように二人とも天国にいったという人もいるでしょう。今月の19日は敬老の日です。会いに行ける人はおじいちゃんやおばあちゃんに会いに行くのがいいかもしれませんね。遠くて会いに行けない人は電話を掛けたり、お手紙を書くのもいいと思います。校長先生はもう二人ともいないので、23日のお彼岸に、実家にお線香をあげに行きたいと思っています。おじいちゃんとおばあちゃんを大切にしてくださいね。校長先生のお話を終わりにします。

少し寂しいお話になってしまいましたが、おじいちゃんやおばあちゃんのことを大切にしたいなと思って、このような話をしました。敬老の日を家族で楽しく過ごせるとよいと思っています。